

ロンドンパラリンピックでは日本女子が金メダルを獲得

≫ ゴールボール

様々なスポーツの魅力を紹介していく「スポーツ博士への道」。

今回は視覚障害者の球技として考案され、ロンドンパラリンピックで日本女子チームが金メダルを獲得したことでも知られる、ゴールボールの魅力を探っていきます。

写真提供・一般社団法人日本ゴールボール協会



ゴールボールは、第二次世界大戦で視覚に傷害を受けた傷痍軍人のリハビリテーションの効果を促進するために考案されたプログラムの一つだったものを、1946年にオーストリアのハイツ・ローレンツェン、ドイツのセット・ラインドルの両氏によって競技として紹介されたのが始まりとされている。パラリンピックでは、1972年のハイデルベルグ大会(当時・西ドイツ)で公開競技に、1976年のトロント大会(カナダ)では正式種目になった。日本は1994年5月に日本ゴールボール協会が発足。2012年のロンドン大会では、女子が金メダルを獲得している。

競技種目

鈴の入った重さ1.25kgのボールを転がし、相手ゴールにボールを入れる対戦型競技。アイシェード(目隠し)を着用した1チーム3人(ベンチ最大3人)で、鈴の音を頼りに交互に投げ合い、味方のゴールを防御しながら得点を競う。試合時間は前後半12分(ハーフタイム3分)。同点の場合は3分ハーフのゴールデンゴール方式(どちらかが先に得点した時点で終了)の延長戦。それでも勝敗が決しない場合は「エクストラスロー」と呼ばれる、サッカーのPKのような1対1の勝負が行われる。

(投球のルール)

ゴールボールでは攻撃時に投げた(転がした)ボールが、自陣のオリエンテーションまたはランディングエリア(チームエリア)とニュートラルエリアの両方でバウンドしなければ反則となる(下の図参照)。

(主な反則)

●ハイボール

攻撃側のチームエリアに触れずに守備側へ投球された場合。

●ロングボール

投球されたボールが、攻撃側のチームエリアに触れた後、ニュートラルエリアに触れなかった場合。

●アイシェードタッチ

ゲーム中、選手がレフェリーの許可なくアイシェードに触れた場合。
※反則を犯した時はペナルティスローとなり、一人で幅9mを守らなければならない。

●10セカンズ

防御側がボールに触れてから投げ返したボールが10秒以内にセンターラインを越えなかった場合。

●ノイズ

攻撃側のチームが投球する際、守備側に不利になるような音を出したと見なされた場合。



[着 衣]

背番号は1〜9。半袖でも長袖でもOK。ズボンも短パンでも長ズボンでもOKだが、ディフェンスの際に滑らせやすいように長ズボンを着用する機会が多い。色の規定はないがユニフォームの中にプロテクターをつける場合、ふくらみは10cm以内。

コート

●広さ

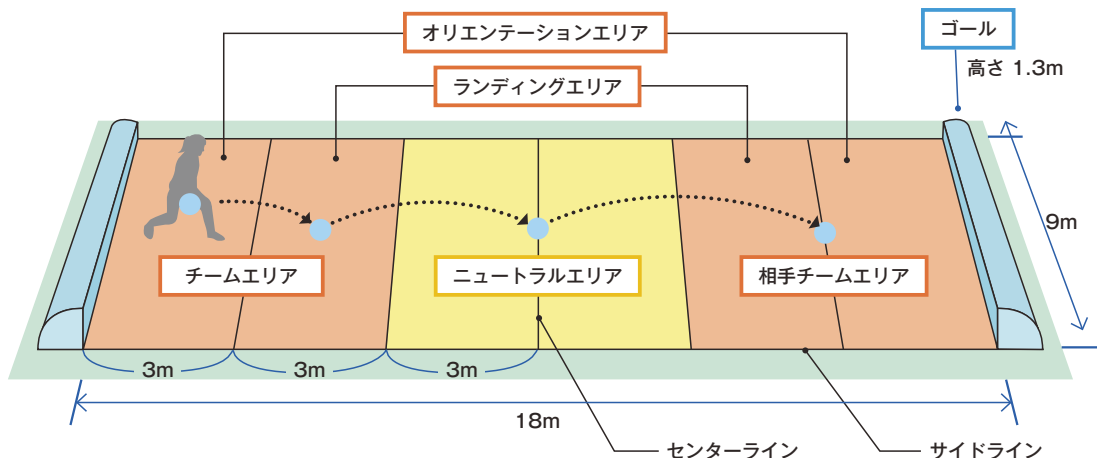
18m×9m
(6人制バレーボールのコートと同じ)

●ゴール

幅9m×高さ1.3m

●チームエリア

オリエンテーションエリアとランディングエリアを合わせたこのエリア内で攻撃も守備も行う



ゴールボール の特徴

アイシェード



光りを完全に遮断したゴールボール専用のゴーグル。試合の時はアイパッチと呼ばれるガーゼで目を隠した上から着用する。

鈴の入ったボール



ボールはバスケットボール（7号）とほぼ同じ大きさで重さは1.25kg。中には鈴が2つ入っている。長く使用すると鈴がつぶれて音が悪くなるため、パラリンピックでは2～3試合しか同じボールは使用されない。

ライン



コート内のラインには床との間に3mm以下の糸を通してその上からテープが貼られている。選手はこの凸凹を手や足で触って自分の位置を確認している。

パス



お互いの位置を確認して床に転がしてパスをする場合もあるが、鈴の音でボールの位置が相手にバレないように手渡しでパスをするという戦術もある。



ゴールボール 雑学 1 相手チームと同じ配色のユニフォームでもOK



サッカーやバスケットボールなどは、相手チームのユニフォームと色が重ならないようにルールで定められているが、ゴールボールには規定がない。写真のように上が赤、下が黒と対戦チームのユニフォームの配色が同じでもOK！

ゴールボール 雑学 2 アイシェードは手作りだった



現在、アイシェードはサングラス、ゴーグルなどを取り扱うレンズメーカーで作られていて、2,000円～3,000円で販売されている。しかし、以前は専門のものがなかったため、光を遮断する素材でスキーゴーグルを覆うなどして、手作りをしていた。

ゴールボール 雑学 3 国内大会は晴眼者も出場可能

パラリンピックには視覚障害者しか出場できないが、日本選手権など日本国内の大会は晴眼者の出場も認められている。アイシェードをつければ条件が同じになるため、競技の普及、選手の競技力アップのために幅広く参加を認めている。日本選手権では晴眼者のみのチームが優勝したこともある。

東京2020パラリンピック
競技大会でのゴールボールの
試合会場は、幕張メッセCホール

〈アクセス〉JR京葉線「海浜幕張」駅下車徒歩5分
京成バス幕01「幕張本郷」駅から乗車、
「幕張メッセ中央」下車徒歩1分



2020年の会場は
幕張メッセ

「ゴールボール」 魅力&見どころ

男子の試合は時速60～70kmのボールを投げ合うので、音を頼りにした格闘技といった迫力を楽しめると思います。プレー中、観客は静かにしていないといけませんが、選手は喋ることができます。選手がどういう声をかけているかとか、音に対してどういうふうに関心が動いているかを観てもらえると、より面白いと思います。各チームはそれぞれ戦術を持って攻撃をしています。作戦タイムの後の攻防を観るのも楽しみの一つです。

（増田徹・一般社団法人日本ゴールボール協会広報・女子強化スタッフ）

